



鈴木家住宅附属建物

公開日 毎週土曜日・日曜日
 時間 午前10時から
 午後4時まで
 復元した船もあわせて公開
 (母屋内部は公開していません)

さはい
 ■船の差配

享保16年(1731)、見沼通船の許可が幕府から出されると、鈴木文平、高田茂右衛門の二人が見沼通船差配に任じられました。江戸に通船屋敷を設けて差配し、出張所にあたる通船会所は、川口宿、八丁堤、新染谷村、北袋村、上瓦葺村、上平野村の6カ所に設けられました。また、荷物の積みおろし場は、川口宿から芝川、東西両代用水路沿いに59カ所設けられました。

鈴木・高田の両差配は江戸の通船屋敷において、通船の経営にあたりましたが、後に、鈴木徳次郎の代になると、みずから八丁の会所(通称八丁河岸)に向いて事務をとるようになりました。その時期は文政年間(1818~1830)といわれています。現在、鈴木家は母家、米倉、その他の建造物が残り、一部の改造はあるものの江戸時代後期の建立であると思われます。

■近代以降の見沼通船堀

明治維新後、通船堀の維持管理は明治7年に設立された見沼通船会社によって行われ、本社事務所は八丁に置かれました。そして、明治26年には株式会社に改組されました。明治時代になっても盛んに行われた通船は、陸上交通の発達などによって、だいに需要も減り、当初、秋の彼岸から春の彼岸まで行われた通船期間はだんだん短くなり、12月15日から2月15日までの2カ月ほどに短縮されました。通船堀を利用した通船は大正末期まで行われましたが、やがて昭和6年には通船許可の期限も切れ、自然廃止の形になって終わりました。

しかし、閘門式運河の特殊性は、早くから注目されており、工学博士中川吉造は「日本最古の閘門運河に就て」と題した論文を昭和3年に発表しています。昭和30年には埼玉県指定史跡となり、浦和市教育委員会、見沼土地改良区、尾間木史跡保存会などによる保護活動が続けられ、昭和57年には、文部大臣から鈴木家住宅も含めて史跡の指定を受け、今日にいたっています。平成6年度から4年間の整備事業で、東縁一の関・二の関、西縁一の関の復元や休憩所・鈴木家住宅附属建物の整備などを行い、通船堀で使用されていた船も復元しました。

◎江戸へ運ばれた貨物

米・粃・大麦・野菜・薪・木材・竹材・漬物・樽柿・味噌・酒など

◎江戸からの貨物

大豆粕・菜種粕・肥料・塩・魚類・南京豆・醤油・菓子・荒物など

THE SITE OF MINUMA TSUSENBORI CANAL

Minuma Tsusenbori Canal is famous as very old lock gate system canal in Japan. It was constructed by Izawa Tamenaga in 1731. The total length is about 1km. In 1982 it was designated as a historic site by the Japanese Government.

Tamenaga developed the Minuma New Ricefields under the order of the 8th Tokugawa Shogun. He drained the Minuma Reservoir and made new ricefields. At the same time he dug two waterways for irrigation from the Tone River and also tried to develop a water transportation route between the Minuma area and Edo, present-day Tokyo. In order to connect the waterways and rivers, he planned to dig a canal between the two new waterways.

Here rose a problem. The water level of both waterways was 3m higher than that of the Sibakawa River, which was running at the bottom. With this big gap, boats could not go through the canal connecting the three waterways. This problem, however, was dexterously solved by making two sets of lock gates on the canal. When river boats passed the canal, plank-gates were locked, the water level was adjusted, and the boats could go on.

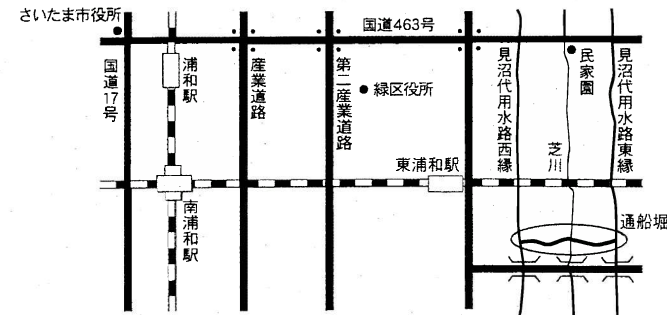
The canal was used only in winter time, when the water was not used for irrigation. Though the season was limited, many items were transported through the canal. For example, from Minuma to Edo: rice, charcoal, fire wood, vegetables; from Edo to Minuma: manufactured goods, general merchandise. Very old lock gate system canal in Japan contributed much to the development of the economy around Edo.

The canal ceased to be used at the beginning of the 20th century from the development of other means of transportation.

THE SAITAMA MUNICIPAL BOARD OF EDUCATION, JAPAN

☆貴重な文化財です。大切に保護しましょう。

交通のご案内



※交通 JR武蔵野線東浦和駅から通船堀西端まで徒歩約3分(駐車場はありません)



見沼通船堀
 ホームページ

お問い合わせ

さいたま市教育委員会文化財保護課... ☎048(829)1725 (2021.1増刷)

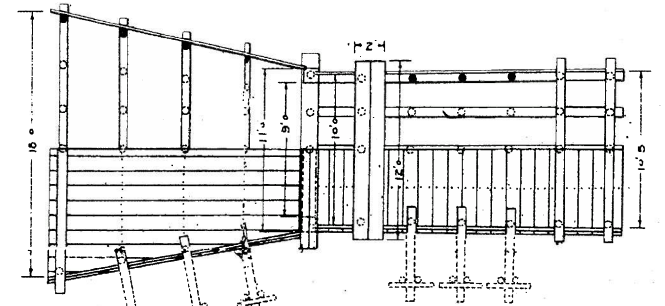
このパンフレットは3,000部増刷し、1部当たりの印刷経費は4円です。

国指定史跡

見沼通船堀

〽船が着いたよ
 〽八丁の河岸に
 早く出てこれ
 おもて綱
 〽八丁でるときゃ
 涙も出たが
 どうぞご無事で
 帰りゃんせ

(市指定 無形民俗文化財
 『見沼通船舟歌』より)



大正元年頃の関枠の図

さいたま市教育委員会